

## 推薦文

【吉田光男（東京大学韓国朝鮮文化研究室 教授）】

【仲尾宏（京都造形芸術大学 客員教授）】

吉田光男（東京大学韓国朝鮮文化研究室 教授）

近世の朝鮮は外部との関係を強く制限しており、わずかに中国と日本だけが政治経済関係を結んでいた。近世朝鮮にとって、東萊倭館とその背後にある対馬は外部世界に向かって開かれた貴重な窓であった。朝鮮から対馬に送られた書契は、外交文書として朝鮮近世の政治意識を読み解く貴重な史料であるが、その記述は詳しく、朝鮮側の史料からはうかがうことの難しい当代の政治・経済・社会・文化を伝えてくれる。しかし、その全体像と内容を把握しがたく、朝鮮近世史研究の史料としては注目されることが少なかったし、利用も困難であった。韓国語で著された原著は、長年日本に留学し、日本と朝鮮の近世史に通暁した研究者によって簡潔な解説が付されており、書契の全体像とその内容を広く知らせるものとして、研究発展に大きな貢献をしてきた。

今回の日本語訳はさらに専門家による内容検討と校訂が加えられており、朝鮮史研究者としても読むのがたのしみである。

### 【推薦文】

仲尾宏（京都造形芸術大学 客員教授）

本目録は前近代の日朝関係史の研究者にとっては、久しくまたれていた目録だ。対馬宗家の文書の大半が韓国にわたり国史編纂委員会で所蔵・整理されてきたことは結果として文書にとって幸運というほかはない。逸散せずに丁寧に整理され、そのマイクロフィルム化もできあがっている。しかしあまりにも膨大なため、個々の史料の内容は史料を手にとって見るまでわからなかった。いまここにそれが一覧性のある目録として整備され、しかも日本語訳の解説がつけられている。利用者にとっては便宜この上ない目録である。

これにより、江戸時代を中心とする日朝関係の研究は飛躍的に進むことになる。また韓国語の解説もすでにあることからすれば、日本と韓国の研究者が同じ史料を駆使して研究を重ね、相互の学的批判に耐えうることのできる研究も期待される。

またこのことは日朝・日韓関係史だけでなく、東アジアの歴史研究の発展においてもおおいに役立つものと信ずる。